

今、考えておくこと 水害時の「避難」

梅雨・台風の時期が来ました。梅雨前線の活発な活動と台風に伴い、毎年各地で水害が多発しており、その被害は年々増大しています。新型コロナウイルス感染拡大の中で、災害が発生した時にどのような避難行動をとれば良いかを「今、考えておく」が大切です。

平成30年と令和元年の主な水害による被害状況

【平成30年7月 西日本豪雨】
西日本を中心に河川の氾濫や洪水、斜面崩壊による土砂災害が多発し、死者263名、行方不明者8名、家屋の全壊6,767棟を数える大災害であった。



(倉敷市真備町2階まで浸水)

岡山県倉敷市真備町では、堤防が決壊して広範囲に浸水、51名の死者が出た。浸水範囲は、町の約4分の1にわたる1,200戸に及び、浸水家屋は5,600棟以上に達した。

【令和元年10月 台風19号】
台風19号の豪雨により、極めて広範囲にわたり、河川の氾濫やがけ崩れ等が発生。これにより、死者90名、行方不明者9名、住家の全半壊等4,008棟、住家浸水70,341棟極めて甚大な被害が広範囲で発生。



(長野県:千曲川を渡る上田電鉄別所線)

- 人的被害は、福島県で死者・行方不明者が最も多く発生。負傷者を含めると長野県で最も多くの被害が発生。
- 住家被害は、損壊棟数(全壊、半壊、一部損壊)は長野県、浸水棟数(床上浸水、床下浸水)は宮城県で最多となっている。

※ 平成30年・令和元年災害関係のHPから引用

近年各地で豪雨災害が多発しているのは何故か？

A: 日本近海の高い海水温が大きく影響しているから。
地球温暖化すると海面の温度が上昇し、大気中の水蒸気量も増えることで、降水量の増加をもたらします。また、日本付近の水温も高いことが多く、台風が十分に弱まる前に日本へ接近・上陸する事例が多くなっています。結果的に甚大な災害へと繋がってしまっています。

- ◎ 日本近海の海水温度が高くなると・・・
- ① 一度に降る降水量の増加
 - ② 台風の巨大化
 - ③ 日本近海に近い所での台風発生
- 今後、巨大台風(850hPa級)襲来も考えられます。



地球温暖化



ゲリラ豪雨



大型台風

※ 地球温暖化関係のHPから引用

水害時の避難 考える「ポイント」は？

- 「洪水ハザードマップ」
- 家のある場所がの浸水の想定が自分のいる 周囲の川と同じ 部屋の床の高さを超えるか？ くらいの高さか？

一つでも当てはまる人は、早めの「立ち退き避難」を

《意外と知らない!「避難」のそもそも》

- 指定避難所へ行くことだけが 避難とは限らない
- 「立ち退き(水平)避難」
- 「垂直(在宅)避難」

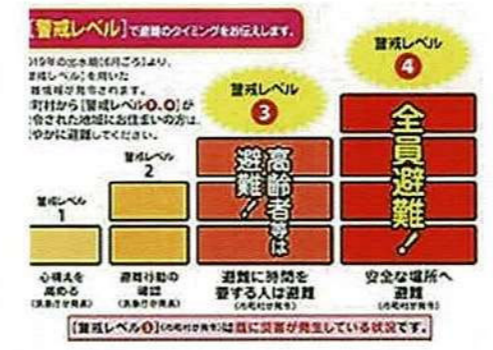
「ハザードマップ」は、市民センターに置いてあります。



新型コロナウイルス感染拡大「避難」の基準は？

《危険迫る…ためらわず避難》

いつもと変わらない・・・避難が必要な状態の人は「ためらわずに」安全な場所に避難を
自治体の避難情報・・・住民がとるべき行動ごとに



警戒レベル ③



警戒レベル ④

新型コロナウイルス感染拡大の中での災害避難 75%が「行動に影響」あり

新型コロナウイルス感染 拡大は、災害時の避難行動に影響するのかわ。NPO法人・環境防災総合研究機構が東京に住む1000人余りにアンケートを行った結果、75%の人が「影響する」と回答した。

《どのような影響があるか複数回答で尋ねると》

- ・「避難所に行くが、様子を見て避難先を変える」が44%
- ・「マイカーなどの車の中で避難をする」が31%
- ・「感染防止対策をして避難所に行く」が30%
- ・「自治体が指定した避難所に行かないようにする」が28%

避難所



車中泊



- 避難先の選択肢を増やす 「分散避難」を

安心安全を考えたときには、避難所だけが避難ではなく、「在宅避難」や「親せき・知人の家」への避難、車での「車中泊」など様々な避難環境への「分散避難」が必要になると思う。

- 避難所に行くかは「対策の内容次第」

避難所でどのような対策が必要かを複数回答で尋ねると、「消毒液の設置」が78%、「マスクの設置」が76%、「隣の人との距離の確保」が70%等でした。

※ NHK NEWSWEB ニュース HP から引用